

大津企業景況調査報告書

(第88回)

令和2年1月 ～ 3月期 実績

令和2年4月 ～ 6月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(令和2年1月～3月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 157 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 6 社	8 社	5 0 . 0 %
卸 売 業	1 5 社	1 2 社	8 0 . 0 %
小 売 業	3 7 社	2 2 社	5 9 . 5 %
サービス業	6 0 社	2 8 社	4 6 . 7 %
建 設 業	2 9 社	1 6 社	5 5 . 2 %
合 計	1 5 7 社	8 6 社	5 4 . 8 %

3. 調査期間

調査対象期間は令和2年1月～3月とし、調査時点は令和2年3月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

【特記事項】

今回の調査は、大津商工会議所会員企業に対して 2 月中旬に調査を依頼し、3 月 1 日に調査を完了している。従って、新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大が 3 月以降に加速している状況は本調査結果の DI 値に織り込まれていない。3 月 11 日に WHO がパンデミック (世界的流行) を発表した。本稿執筆時点の 3 月末時点においても、日本のみならず、欧州、米国等で感染の拡大が日々深刻化している状況であることを、ここに付記しておく。

景況感は7年ぶりのマイナス水準

令和2年1月～3月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期から7ポイント悪化して▲26となり、2012年12月以来7年ぶりのマイナス水準となった。特に新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大による活動自粛やインバウンド需要減少の影響で、サービス業が45ポイント悪化して▲36、建設業が13ポイント悪化して▲13となった。製造業では、▲50から▲38へ、小売業では▲50から▲32と、マイナス幅は縮小しているが低迷は続いている。

先行きの業況判断DIは、全体では▲26から▲20へとマイナス幅は縮小するが、低迷は続くともみている。業種別では、建設業、製造業、小売業、サービス業でマイナス幅が縮小するがDI指数のマイナスは継続する。卸売業のみプラスに転じるとみており、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は予測不能であり、各業界が混乱している状況が浮き彫りになった。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、建設業、サービス業で大幅悪化。

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲18から今四半期は▲26となった。業種別では、建設業は±0から▲13へ、サービス業も+9から▲36へとマイナスに転じた。一方、製造業は、▲50から▲38へ、小売業が▲50から▲32へマイナス幅は縮小しているが低迷は続いている。卸売業は▲33から±0に4改善された。調査時点では、業種によって新型コロナウイルスの影響に違いがあったことがうかがえる。

□ 売上DI（前年同期比）は、全体に悪化。特にサービス業が大幅悪化。

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲22から▲29へと悪化した。業種別では、建設業は+7から▲6へ、サービス業も+3から▲36へとマイナスに転じている。特にサービス業の大幅悪化は、感染による自粛の影響を敏感に受けているとみられる。一方、製造業は、▲60から▲50へ、小売業が▲55から▲27へと改善している。

□ 採算DI（前年同期比）は、サービス業のみ大幅悪化し、自粛の影響を最初に受けた模様。

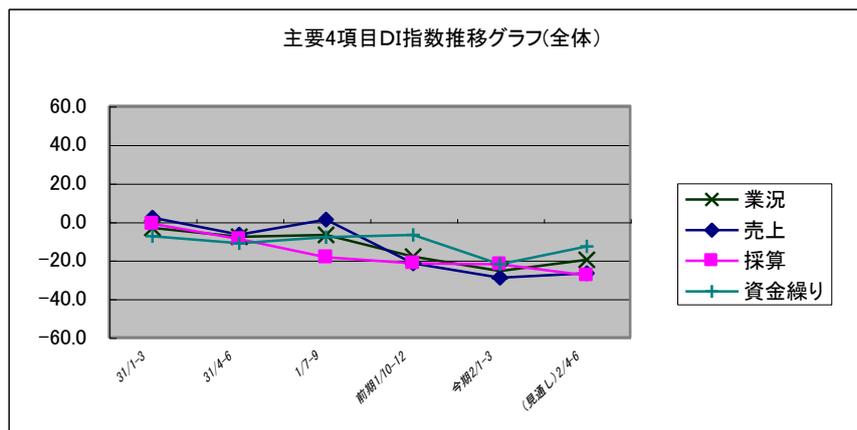
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期、今四半期共に▲22と横ばいであった。建設業が▲14から▲13と小幅改善、製造業が▲60から▲25、卸売業が▲8から±0、小売業が▲45から▲32へと改善している。サービス業のみ▲3から▲29へとマイナス幅が拡大した。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、卸売業以外のほとんどの業種でマイナス幅が拡大。

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲7から▲22へとマイナス幅が拡大した。業種別では、卸売業が前四半期から8ポイント改善しているが、他の業種は軒並み10ポイント以上悪化している。

□ 従業員DI（前年同期比）は、人手不足感が緩和の傾向。

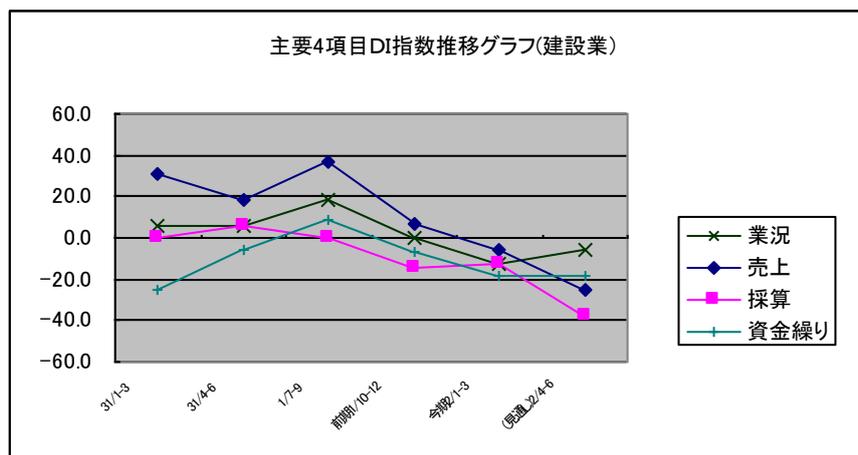
「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+27から+16へと景況感悪化に伴い人手不足は緩和している。製造業では+23ポイント上昇し人手過剰から人手不足に転じたが、卸売業、小売業、サービス業では2桁のマイナスを示しており、人手不足感は緩和の方向である。建設業はほぼ横ばいであった。



建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+0 から今四半期は▲13 へと、前々四半期以降右肩下がりの傾向である。個別指標をみると、「売上」も前四半期+7 から今四半期は▲6 へとマイナスに転じた。建設業は、長期にわたり景況感の高揚をけん引してきたが、調査段階では高止まっていた原油価格の影響や、新型コロナウイルス拡大による景気悪化懸念が経営者マインドの低下を引き起こしているとみられる。「採算」は▲14 から▲13 と若干改善したが、「資金繰り」は、▲7 から▲19 へと大幅悪化しており、売上の悪化が資金繰りに影響していると想定される。

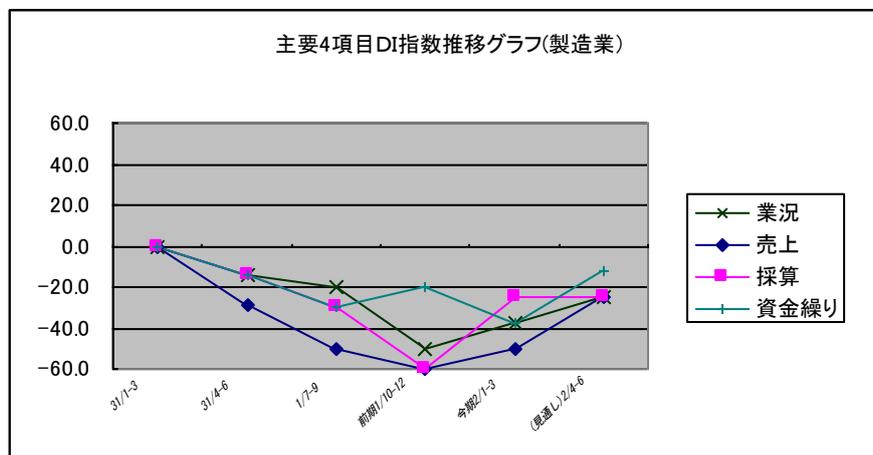
「従業員」は+43 から+44 となり、売上が低下しても人手不足の深刻さは続いている。



製造業

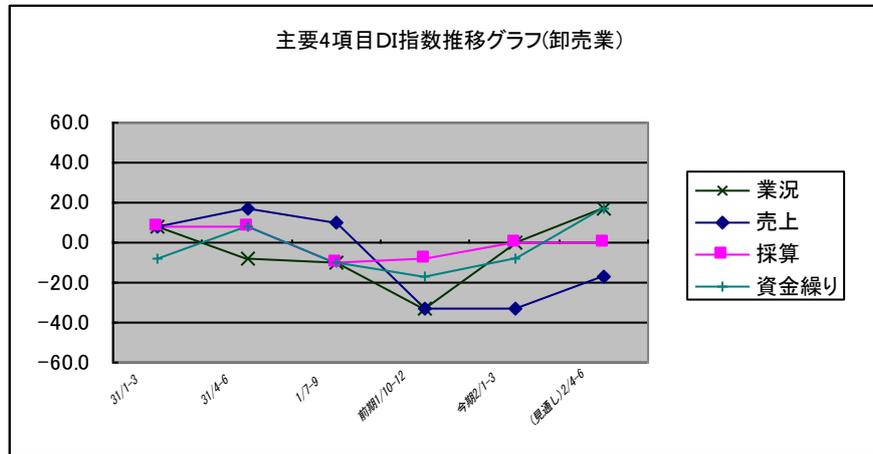
DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲50 から今四半期は▲38 へとマイナス幅が縮小した。米中貿易摩擦が両国の合意によって安定化の兆しが見えたことや、消費増税による買い控えも徐々に解消されつつあることが経営者マインド改善の要因となっているとみられる。個別指標をみると「売上」は前四半期▲60 から今四半期は▲50 へ、「採算」についても▲60 から▲25 へとマイナス幅を縮小している。一方で、「資金繰り」については▲20 から▲38 へとマイナス幅が拡大している。

「従業員」については▲10 の人手過剰から+13 の人手不足へと転じた。前四半期は業況悪化の影響で仕事量が減少していたが、今四半期は業況が改善しつつあることを表している。製造業に関しては、調査時点では新型コロナウイルスの影響を大きく受けていないとみられる。



卸売業

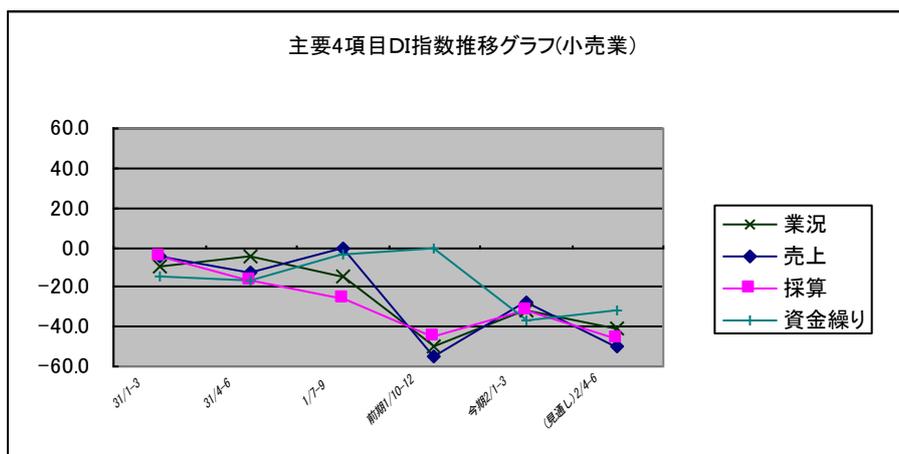
DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲33から今四半期は±0へと前年並みに改善した。個別指標をみると、「売上」は前四半期と同様に▲33と変化がなかったが、「採算」は▲8から±0へ、「資金繰り」も▲17から▲8へと共にマイナス幅が縮小している。一方、「従業員」は+50から+25へと減少し、人手不足感は緩和している。



小売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲50から今四半期は▲32とマイナス幅が縮小した。個別指標をみると、「売上」は前四半期▲55から今四半期は▲27へ、「採算」についても▲45から▲32へと共にマイナス幅が縮小している。調査時点では、新型コロナウイルスの影響は大きく受けていないとみられ、消費増税の影響低減と、キャッシュレス決済のポイント還元がプラス要因に働いているとみられる。

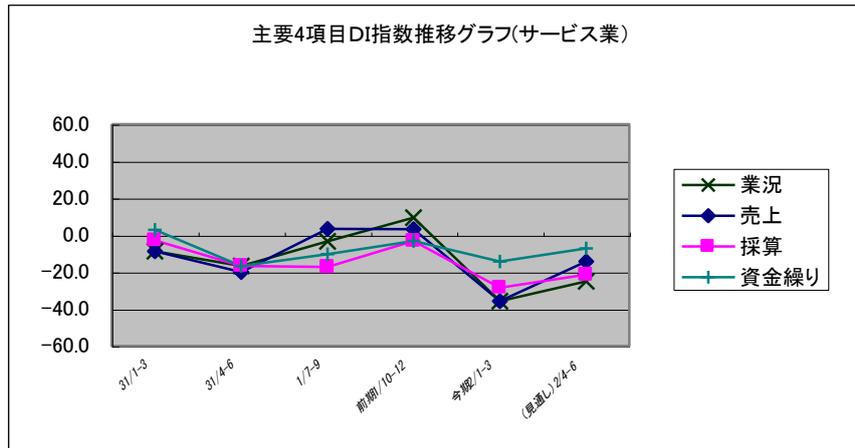
「従業員」は+30から+14への減少しており、人手不足感は緩和している。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+9 から今四半期は▲36 と大幅に悪化している。個別指標をみると、「売上」は+3 から▲36 へ、「採算」も▲3 から▲29 へとマイナス幅を拡大している。前四半期では消費増税の影響を軽微と捉え、DI 指数が大幅に上昇していたが、今四半期は新型コロナウイルスの影響を真っ先に受けていると思われる。巻末のコメントでも、サービス業では新型コロナウイルスの影響を記載している例が多く、調査時点で既に感染によるイベント自粛やインバウンド観光客減少の影響が他業種より早く顕在化していたことがうかがえる。

「従業員」は+22 から±0 となり、仕事量の減少で人手不足感は解消したと思われる。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲26 から▲20 へと低水準ながらもマイナス幅を縮小するとみている。個別指標をみると、「売上」は▲29 から▲27 へとマイナス幅を縮小するが、「採算」は▲22 から▲28 へとマイナス幅が若干拡大するとみている。

業種別の「業況」DIでは、建設業は今四半期の▲13 から来四半期は▲6 へ、また製造業も▲38 から▲25 へ、サービス業も▲36 から▲25 へと低迷は継続するもののマイナス幅は縮小するとみている。小売業は▲32 から▲41 へと悪化するとみる一方、卸売業では±0 から+17 へと改善するとみている。調査当時は、新型コロナウイルスの感染拡大が経営に与える影響を予測することができず、各業界が混乱している状況が浮き彫りになった。

全体の「従業員」は、+16 から+21 と、引き続き人手不足感が高止まりするとみているが、感染拡大を受けて非正規労働者の雇止めが問題になるなど、今後の感染拡大次第では、失業者が増加する予測も出ており、予断を許さない。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した企業の割合は30%で、3ヵ月前の24%より6ポイント増加した。計画ありを業種別にみると、製造業、卸売業がともに50%、建設業が38%、サービス業が21%となっている。

投資する企業の投資内容の割合は、「設備更新」が58%で最も多く、業種別で見ると、サービス業で83%、卸売業で67%、建設業、小売業で50%、製造業で25%となっている。調査時点では、業況の回復が見込まれていたため、老朽化設備の入れ替えを計画していたと思われる。しかし「合理化・省力化」は全体の12%、「生産力増強」は全体の4%と、積極的に事業を拡大する状況には無く、現在の新型コロナウイルスの感染状況ではこのマインドはさらに消極的になっていると推定できる。

投資方針は、「計画通り」が前期の53%より大幅に減少して39%、「景気により見直す」が前期の33%より9ポイント増加して42%となっている。全体としては景気の先行きに不安を抱いている様子がうかがえる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・景気の動向によって見直しておりましたが、一向に良くなりず、そのうちにあちこち傷みかけて手がつけられない状態になりつつあります。災害が続き職人さん不足が重なり困っております。(卸売業)
- ・クレジットカードやプリペイドでのお支払いが増えた。対応していないカードなどあると「この店はどうなっているんだ」とクレームもどきのお客様。缶コーヒーのCMにある「この星はこれからどうなるんだ」が現実として思ってしまう。消費者ニーズをとらえようとする所に間違いがあると思う。(小売業)
- ・若い世代の需要の変化、高齢化の進行、超高齢化が需要の低下。新し販路の開拓が商法の変化がまだまだ改革にともなっていない。もう一步の努力。頑張るしかない。家族労働の強さを生かすしかない。(小売業)
- ・コロナウイルスに泣かされてます。取り消しが多く発生してますので・・・(サービス業)
- ・新年早々コロナウイルスそしてオリンピックの終了では9月以降の予想が全くわからない。経済すべてが縮小に向くのは大変怖い一年になると思われる。
(サービス業)
- ・コロナウイルスの拡大によるマスコミ報道が風評になっている。そのため、外国人のみならず日本人(国内)の旅行気運も低下し、出控えが目立って来た。(サービス業)
- ・高齢者(前期)以上はお金を使わなくなっている。ガソリン等の燃料高騰など生活物質の値上がりで庶民の生活が苦しくなっている。消費増減の影響が年明けから出てきている。
(サービス業)
- ・安倍ではもたない。(サービス業)
- ・やはりコロナの状況を見て行く必要があります。(建設業)
- ・ガソリン高値が困ります。台数が多い為出費が増します。(建設業)

以 上

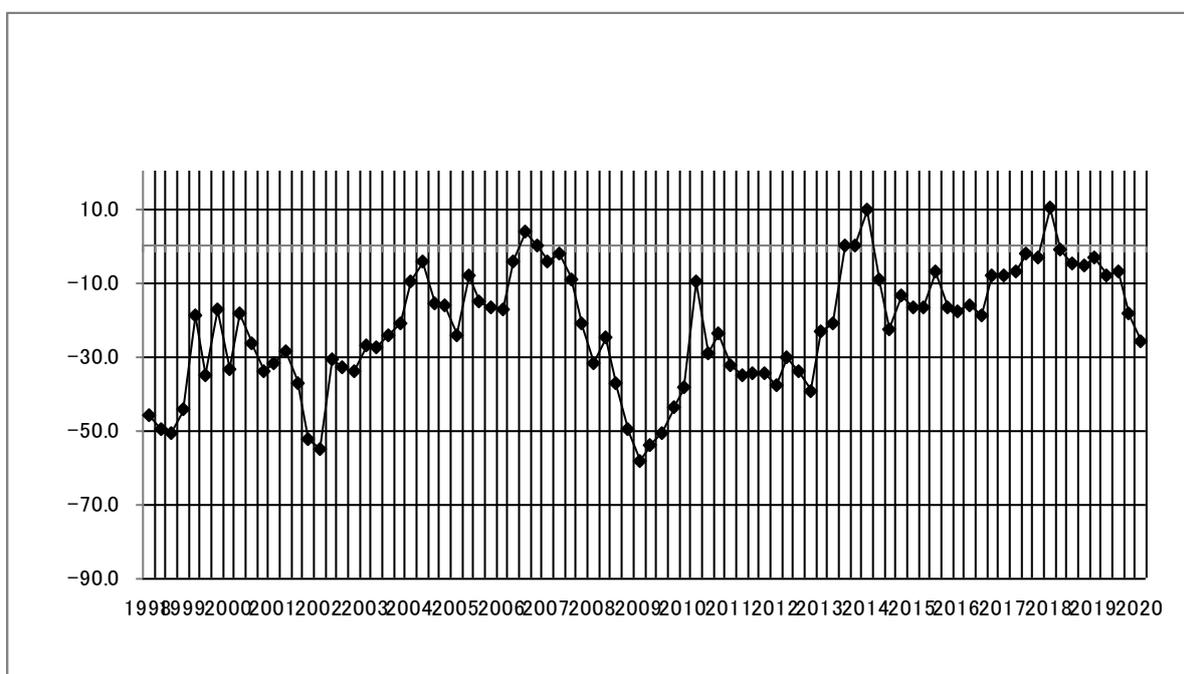
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	▲25.6	▲19.8	▲29.1	▲26.7	▲22.1	▲27.9
建 設 業	▲12.5	▲6.3	▲6.3	▲25.0	▲12.5	▲37.5
製 造 業	▲37.5	▲25.0	▲50.0	▲25.0	▲25.0	▲25.0
卸 売 業	0.0	16.7	▲33.3	▲16.7	0.0	0.0
小 売 業	▲31.8	▲40.9	▲27.3	▲50.0	▲31.8	▲45.5
サービス業	▲35.7	▲25.0	▲35.7	▲14.3	▲28.6	▲21.4
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	2.3	7.0	▲25.6	▲24.4	16.3	20.9
建 設 業	25.0	37.5	▲18.8	▲18.8	43.8	43.8
製 造 業	37.5	12.5	▲37.5	▲37.5	12.5	12.5
卸 売 業	16.7	0.0	8.3	0.0	25.0	33.3
小 売 業	▲22.7	▲13.6	▲36.4	▲31.8	13.6	13.6
サービス業	▲7.1	7.1	▲32.1	▲28.6	0.0	10.7
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し
全体	▲22.1	▲12.8	▲2.3	▲4.7	0.0	▲2.3
建設業	▲18.8	▲18.8	18.8	12.5	25.0	18.8
製造業	▲37.5	▲12.5	0.0	0.0	12.5	12.5
卸売業	▲8.3	16.7	0.0	0.0	8.3	8.3
小売業	▲36.4	▲31.8	▲13.6	▲18.2	▲13.6	▲18.2
サービス業	▲14.3	▲7.1	▲7.1	▲7.1	▲10.7	▲10.7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucchi.or.jp/>